

# 令和6年度学校自己評価システムシート (県立和光高等学校)

目指す学校像	創造する力を伸ばし、協働する元気な集団を育てる学校
--------	---------------------------

重点目標	1 意欲を育て、ひとりひとりの力をしっかりと伸ばす学習指導 2 ルールと時間を守り、思いやる心と社会性を養う生活指導 3 自分自身を正しく理解させ、自尊・自信を築く進路指導 4 協力を汗を流すことを尊ぶ、活気ある学校行事と部活動の充実及び地域への貢献
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名(紙上参加含む)
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )			実 施 日 令 和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<b>【現状】</b> ・2年間の少人数学級編制に魅力を感じ、高校での学びなおしを目的に入学する生徒が多い。 ・生徒全員が一人一台 iPad を所有しており、授業だけでなく学校生活の様々な場面で活用している。 ・新教育課程、観点別評価が全学年で実施されている。 <b>【課題】</b> ・入学段階から基礎学力の定着に課題を抱える生徒が一定数おり、学習への取り組み方について丁寧なサポートが必要である。 ・統合による生徒の学習環境への影響を最小限にする工夫を考えていく必要がある。 ・授業力向上のための取組(特に ICT 活用や一人一台 iPad を所有していることを生かしたさらなる活用の模索等)をさらに進めていく必要がある。	さらなる授業力向上の推進	①教員相互の授業見学 ②ICT を積極的に活用した授業実践 ③授業評価アンケート、授業参観でのアンケート実施 ④外部講師を招いた研究授業の実施	①②教員間の授業見学参加者数 ②職員研修、研究協議への参加者数 ③授業評価アンケート等の結果 ④研究授業の実施回数				
		生徒の実態に即した学習支援の推進	①2年間の少人数学級編制の継続 ②調査前補習などの実施 ③ICT の学習活動への活用 ④一人一台 iPad の効果的な活用	①学校評価アンケートの結果 ②成績優良者数、不振者数の変化 ③教員間での ICT の活用例の共有				
2	<b>【現状】</b> ・学校生活・通学におけるルール・マナーの遵守に課題がある。特に、頭髮・服装を自ら正そうとする意識が依然として低い。 ・年間遅刻者数がのべ1500人と、依然高い水準である。 ・登下校時の交通事故件数が、高い水準である。 ・場に応じた行動ができず、問題行動も発生している。 ・人間関係の形成や家庭環境などに多様な課題を抱えている生徒が増加している。 <b>【課題】</b> ・規範意識の醸成および基本的生活習慣の定着が求められる。 ・外部機関や家庭と連携した組織的な教育相談体制を確立させる。	規範意識の醸成および基本的生活習慣の定着	①生徒の時間管理意識向上させる取り組みの充実(5分前行動、チャイム着席の徹底、遅刻指導等) ②全校統一基準による各種指導の充実(頭髪服装指導、登下校指導等) ③LHR や特別活動を生かしたソーシャルスキルの育成	①③全体遅刻数・欠席数の減少 ②③整容違反者の数の減少 ②交通事故件数の減少 ③行事事後アンケートの満足度の上昇				
		組織的な教育相談体制の確立	①SC・SSW・学校相談員・特別支援学校のコーディネーターと連携した、情報共有や問題解決	①各委員会の年間開催回数の増加				
3	<b>【現状】</b> ・体系的な進路指導を計画・実施しているが、生徒の進路希望が多岐にわたり、実態も多様である。就職と進学は概ね半々であるが、進路方針がなかなか定まらない生徒も一定数いる。 ・生徒の多くは進路活動には意欲的であるが、自らの適性に合った進路選択について決められず、スタートが遅れてしまう生徒がいる。 <b>【課題】</b> ・早い段階から具体的な進路目標を見据えさせるための段階的なキャリア教育の充実が必要であり、特に「職業観」についての理解を深められるような内容をガイダンス等に取り入れていく必要がある。 ・就職希望者において、内定を得る時期が1月以降となる生徒が一定数いる。早期に内定を得られるよう指導していく必要がある。 ・経済的な理由から、年度途中で進学から就職へ変更となる生徒が若干名出ている。奨学金の仕組みから資金計画まで、生徒・保護者双方への情報提供を丁寧に行なう必要がある。	進路の選択肢の把握と進路意識の醸成	①「高校生のための学びの基礎診断」の実施と活用 ②進路面談の積極的な実施 ③進路ガイダンスの実施による職業観の育成	①②③授業など学校生活に取り組む姿勢の変化 ②③学校評価アンケート(進路)での満足度 ②③進路希望調査での未定の減少				
		早い段階での希望進路決定者の増加	①段階的な進路計画の策定と、各学年での進路行事の実施 ②夏の進路特別指導等における組織的・体系的な指導の実施。 ③資格取得の奨励 ④オンライン上での学校情報収集、求人票検索等に関する指導の充実	①②進路決定結果の内容 ①②卒業時の進路未定者の減少 ③資格試験の受験者数の増加				
4	<b>【現状】</b> ・学校行事や部活動について、2学年体制でも前年度と変わらない充実度を生徒が感じられる工夫を考えていく必要がある。 ・地域連携やボランティア活動は総合的な人間性やコミュニケーション能力も身につく機会であり、引き続き大切にしたい。 <b>【課題】</b> ・部活動と行事の活性化により、生徒自身の総合的な人間力の育成が必要である。 ・地域との連携により、開かれた学校づくりを推進させていく。 ・活動を地域に発信する手法等を工夫していく。	部活動の活性化	①部活動への参加を奨励し、条件整備のための部活動関係費の充実 ②他校との合同チームや交流による活動内容の充実	①②部活動費執行率の上昇 ②部活動顧問会議の活性化				
		学校内外の諸行事の活性化および地域との連携強化	①生徒会本部や各種委員会が主体となり、地域と連携した魅力ある特別活動の企画運営 ②地域での催し物への積極的参加	①行事事後アンケートの満足度の上昇 ②連携・協力した外部機関の数の増加				